

科目名	成人看護援助論Ⅴ				
担当講師名	紺野 知亜紀	所属・役職	主任看護教員	資格・免許	看護師
担当講師名	田中 千恵子	所属・役職	看護教員	資格・免許	看護師
授業形態	講義・演習	単位数・時間数	1単位 30 時間	開講年次	2 学年前期
講義の概要	<p>【大人を看護するための看護過程】</p> <p>○看護の現象には様々な成因为考えられ、成因間にも色々な関連性が見出される。看護行為の成果を実際の行動レベルでみるという意味で、関連図を書くことは人間を総合的にみていくことになる。関連図と看護ケアの関係は、看護過程のどの段階においても、その都度関連図が見直されることによって、看護過程を適切に効率的に推進することができる。そのためその方法を学習する。</p> <p>○事例を通して看護過程を演習し、一連の展開方法、対象に必要な看護を導き出す考え方の筋道を学習する。</p>				
到達目標	○健康障害を抱える成人期にある対象とその家族に対して、各経過に応じた看護の特徴を理解し、実践できる能力を養う				
講義回数	講義内容				
1～5	1. 病態関連図（シーケンス） 2. 急性期患者の看護 1) 周手術期患者の看護展開 2) 全身麻酔で開腹術を受ける患者事例 3) 実施結果・評価の記入方法				講義・演習
6～10	3. 慢性期・慢性疾患患者の看護 1) 慢性疾患患者の看護展開				講義・演習
11～15	4. 終末期患者の看護 1) 終末期の患者看護展開				講義・演習
教科書等	<p>教科書：            「疾患別看護ケア関連図」/「症状別看護ケア関連図」 中央法規            「臨床外科看護総論・各論」/「緩和ケア」医学書院            「成人看護学総論」 医学書院 各疾患の教科書</p> <p>参考書：            「成人看護実習ガイドⅠ 急性期・周手術期」 照林社            「高齢者と成人の周手術期看護2 術中・術後の生体反応と急性期看護 医師薬出版株式会社            「よくわかる周手術期看護」 学研「国民衛生の動向」 厚生労働統計協会            「なぜ？どうして？」メディックメディア            「基礎看護学 看護過程」の授業で使用した資料            適宜、資料配布</p>				
成績評価方法	出席状況、授業参加状況、課題により総合的に評価する。				
履修上の留意点	既習の病態生理学、看護学援助論、看護過程をふまえて授業に臨む。				
特記事項					